

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19

里見八犬傳 拾五編 卷三十五



13  
3416  
85



13  
3416  
85

十子編五巻之内

二十子上

松野

晴雪院

南總里見八犬傳第九輯卷之三十五

東都 曲亭主人編次

第五百十九回 助友忠諫父の志代る  
信隆機変族の兵を借る

却説雜兵相岡猿八が当晚洲崎の陣より来て軍師犬阪毛野平報る那  
浦中より有一の誨られる猿樂の扇谷の間謀見天岳餅九郎と釣出ある  
其奴鈍くも謀られ友勝の汲引をせんと同船の乗りて五十子の城に投て  
漕走らせける光景とて具に毛野の憶むら笑ま。現狐を釣る舊主の  
似る我算計の折もよくゆれて及浦安等の邦助ある一八実物怪の幸  
らける事比皆汝が押死に必秘をべし秘をべしと口を針め人不知らせ卒とそ  
賞錢を取まれば猿八を飲ひ受る。己が守屋退りけり。あの時尚甲夜更の  
賞錢を取まれば猿八を飲ひ受る。己が守屋退りけり。あの時尚甲夜更の

定小至らぬが毛野の本陣に赴きて義成主を見参り折ら義成主の獨帳中  
 る。燈燭の下に兵書と圖して在り。躬く刀を入れて對面あり。當下毛野の今  
 宵貞住の遣兵百五十名を從せ。大角が兩個の使と共に那地へ遣りける。又の  
 趣。又東峰崩と鯨船員六も亦百五六十の隊兵を授け。其投を方へ  
 遣り。又音音曳と妙真單節と前後の別船より乘せ。二度お五  
 十子へ遣り折妙真も浦安牛助友勝と附。幫助なき。又雜兵粗  
 圖様八が猿樂と。扇谷の間謀見天岳餅九郎と釣かける。又の便宜を  
 悄地の生口京へ。言果て又の音音曳も四個の婦女子と前後二度遣り。又  
 徳々の遠慮ふられ。那朝時技太郎の事もいへ。大石憲重も猶疑  
 いて十代九豊俊の降参。信する事も。然心許る。いへ。鳥夜の投石。似  
 れども。更々猿八が猿樂と。聊試ひり。思ふ。増。便宜。既不安心

仕の取。といへ。義成主。うら。笑て。然。猿樂の計策。い。出来。過。たり。と。者。も。あ。り  
 んを我思ふ。い。能。狐と捕る。構。夫。ち。あ。必。野。狐。の。あり。思。い。定。り。ね  
 ども。餌。と。り。涼。と。拭。て。待。て。狐。必。寓。來。り。其。涼。入。り。ぬ。る。汝。今。宵。は  
 算。計。も。則。又。あ。理。也。那。敵。の。回。謀。見。が。必。其。浦。邊。在。ん。と。正。可。思。ひ  
 り。ざ。れ。ども。謀。る。所。暗。合。て。毫。も。錯。り。け。ん。凡。智。の。よ。く。做。す。所。も。ん。や。曩  
 ち。の。い。る。媒。鳥。を。り。秋。小。禽。を。捉。る。者。と。則。是。同。一。理。也。既。わ。り。七。敵。の。間  
 謀。見。が。汲。引。を。あ。り。妙。真。單。節。友。勝。の。い。ち。立。音。音。曳。も。是。ふ。よ。り。て。必  
 や。信。容。ら。れ。ん。鳴。乎。謀。ま。る。哉。と。稱。え。ぬ。毛。野。の。畏。る。額。衝。て。臣。も。智。術。の  
 所。以。あ。る。也。這。回。松。策。始。り。其。圖。不。當。り。い。則。錯。の。御。盛。德。也。天。の。祐。あ  
 り。む。機。変。の。実。已。工。を。い。は。る。所。也。せ。ぬ。と。い。を。義。成。主。は。あ。ぞ。不。と。然。さ  
 い。は。七。機。変。の。巧。聖。賢。の。必。嫌。ふ。所。も。孫。子。の。兵。を。詭。道。と。い。ふ。の。故。也

孔聖の事不臨々必怕れ謀を好て成さん者んとのけあわらむ。然る機変は  
 巧るも善不與してゆへ必や饒されん邪智の機変は必害あり。豈一列の  
 論せんや。又か未既の敵の寄きると歩え。八日未遠くも今大寒の响ふ  
 水戦を上目とせる敵の浅慮のゆへも足らぬ。自家の士卒衝心。海も落ゆ  
 者ゆへ立地凍死ん然るても脚冷亀りて干戈を操る不便るべし。あ  
 美を豫思ふ物と問れて毛野の答て公を。然る寒天の水戦は自他の不便  
 ゆへも年来知せぬゆへ。當國の冬暖る。氣候違ふは牧野水軍を調煉  
 仕のひひの既初冬の時候多。這頭の海水温るれば馬不乘りて海を涉  
 未馬脚冷む凍む。あをりて血氣壯る士卒の々。泗江もひひ今大寒の  
 時このも水は反て温る。況八百八人の拙策ゆれば。海水も言やまき  
 湯の做るべし。あ美脚機念あべらむと公を義成主理もと応て。餘談不

父の夜深おけり。話分両頭。この日十月五日。五十子の城内。今朝早天。赤品百中  
 が背節と艦幟を賜りて。親姑峯路へと。後定正頭定相計ひ。則水  
 陸の隊配あり。這里も亦間諜見の住進。据て敵の備とす。小惣大将里見  
 義成。安房の洲崎。本陣と構て。則公在り。軍師大阪毛野。胤智防禦使  
 犬山道。即忠與也。相従て是を守る。其隊の軍兵一萬二千多。又陸の下  
 總る。園府。吉室。根城。中て。義成の嫡子。里見冠者。義通。惣大将。老黨  
 東六郎。辰相。兵頭。杉倉。武者。助直。元名。是を守る。又其城外。矢所。河を  
 前めて。防御使。犬塚。信乃。成孝。犬飼。現八。信道。是を守る。内外の軍兵一  
 萬不足。又行徳。口。防禦使。犬川。壯久。義任。犬田。小文。吾。悌。順。大将。ら  
 矢所。下流。行徳。の。入江。河。邊。本陣。ある。其隊の軍兵七八千。過。ぬ。の。他  
 安房。上。總。る。四十八。箇。城。の。故。の。如。く。城。主。頭。人。是。を。守。り。て。海。邊。の。備。も。固。る

らむ稲村の城の義成の三男里見次丸老黨荒川兵庫助清澄名三十九  
 士卒と俱ふれを守り龍田の城の義成の父里見治部大輔義実不致仕は老  
 黨杉倉本曾八氏元堀内藏人貞必等相従ふく是を守る龍田の士  
 卒僅か一千二百と云是よりて例崎へ向ふ水戦の惣大将の管領扇谷  
 修理大夫定正並不定正の長男式部少輔朝寧小幡木工頭東良大石  
 源左衛門尉憲儀武田左京亮信隆是等と宗徒の大将としてこの隊の軍兵  
 三萬餘名巨艦數百艘あり乘り本月八日の曉天より徑小洲崎へ推寄  
 せんとて又下總の國府臺の管領山内兵部大輔顯定足利左兵衛督  
 成氏を両大将と顕定の嫡子上杉五郎憲房並白石城八重勝成氏の家  
 臣横堀史在村新織帆大夫兼奉行是は不従ふ兩隊の軍兵三萬八千又行  
 徳へ定正の嫡子上杉五郎九朝良と千葉八自胤と両大将と大石石見

守憲重原播磨介胤久相馬郡領將常稻戸津衛由元等是は不従ふ兩隊の  
 軍兵三萬餘と漸々走附く士卒と令て水陸の兵を慮八九萬及び  
 伴りて十五萬騎と稱えり既申て諸方の隊配の如く定りければ朝頭  
 定父子成氏朝良自胤の柴濱より艦を或は西國の海より或は徑中川へ  
 推渡して夙く要害と令んとす士卒の艦を餘りては舟も三々りり并  
 が中成氏に初大石憲儀が約束の言違ひて定正顯定の管待恭しき況  
 今番の惣大将もさぐるも申され独憤胸を満て側人の言折々伴の老  
 黨横堀史在村の言は何れも怨せし他が諫の粗語は事のお及ぶ不  
 とも在村恥る色き情地を主を寛解せし御憤は然るをが臣等事  
 勢ありて那肚裏を推量り不定正も顯定も底意を我君と推尊する小  
 ちねども近國の諸将来會をされ其兵權を失はんとす胡意恭敬の礼茂

盡さ。遊莫國府臺の寄隊。他既我君。搦大将不倣。一まわせ。顯定の  
 副將。且水路の安房へ近けれども。那裏僅四郡の。上總の安房五六  
 倍。四十餘城。魚米の地。然下總より攻入りて。早く上總を畧せ。其  
 軍功。正王の水戦。十倍。兵權立地。我君の御堂。入らる。何の御疑ひ  
 いか。大功の細謹。省首。大札の小讓。辭せ。小水。忍され。大謀。乱るとい  
 ふ。今一乘。時忍せ。之臣。徳而の。耳計。ひいて。ち任。せ。ひ。説惑  
 甘便。任利。口成。氏。淺くも。憤り。解。又阿容。々々。顯定。父子。俱。國府  
 臺。と。投。て。進。發。も。後。悔。あ。ふ。立。さ。る。一。有。徳。一。程。扇。谷。の内。管。領。持。資  
 入。道。道。灌。の。其。子。新。六。郎。助。友。と。名。代。中。て。あ。の。日。五。十。子。の。城。に。着。到。あ。け。る。助。友  
 隊。兵。之。百。餘。名。昨。日。相。撞。る。糟。谷。の。館。と。立。出。く。勝。り。や。今。日。も。速。く。も。敢  
 遲。參。と。取。る。色。を。推。く。定。正。王。不。見。參。て。父。の。意。見。と。舒。く。い。や。累。表。の

愚父道灌。屢諫書。口呈り。里見を御征伐の不可。と稟。あ。御用  
 ひ。あ。ぎ。て。既。あ。の。期。及。せ。あ。が。今。や。是。非。の。ゆる。べ。所。あ。ら。ぬ。あ。れ。も。人。の  
 臣。と。も。其。君。の。非。と。知。り。あ。ら。猶。も。孤。忠。の。詞。を。盡。さ。其。傾。覆。を。俟。る。不  
 義。而。て。且。愚。る。べ。抑。那。義。成。父。子。の。世。稀。多。死。良。將。也。當。家。と。怨。結  
 び。る。事。短。又。其。良。佐。者。あ。仁。義。八。紘。の。八。犬。士。あ。東。荒。川。杉。倉。堀。内。の  
 一。母。も。皆。一。人。當。千。也。其。封。疆。を。守。る。足。れ。然。る。今。烏。合。の。衆。也。  
 一時。水。陸。も。攻。も。克。ま。思。召。ゆ。卵。と。石。を。壓。火。と。氷。を。水。  
 擲。つ。も。甲。斐。た。枝。あ。ひ。べ。臣。等。が。愚。心。意。の。是。を。思。ふ。里。見。の。腹。心。の。患。あ  
 り。後。の。患。ひ。あ。る。べ。則。是。顯。定。王。と。北。條。長。氏。あ。ひ。と。反。て。顯。定。王。あ。ひ。と  
 東。ね。詞。を。卑。く。あ。る。俱。里。見。と。伐。あ。ひ。只。前。面。と。背。と。忘。れ。御。不。覚。見。あ  
 り。さ。ら。ん。や。倘。幸。ひ。あ。り。今。番。の。戦。ひ。不。克。せ。る。者。あ。る。兵。權。反。て。顯。定。王。あ。ひ。と

ることありまじや。又戦ひ利ありまじ。是より怨と里見氏に結びぬるを。御方の  
 諸將離れ叛けり。地を削りしに至る時悔く及ばぬ。あつては。而るをのりや。宣  
 さんや。今大寒の時候。水戦と上目と。士卒の脚亀り。搦れ自由  
 るべし。且昔のゆえ。近世も安房上總と攻伐す。艦を渡せ。例を穿つ。水  
 行い其路捷けれども。海岸の岨最多く。波濤暴れれば。艦寄らば。あはれ極  
 危し。敵の海邊も成長り。水戯水馬自由。ふちあはれ。不知安内。士卒を駈  
 這寒天。水戦の時も。敵も知し。召れぬ。謀の軍とのま。頭定主の  
 理を。知る。飲君と俱。水路は向ふ。其隊配の折れ。泣く。反く。園府。高臺の  
 敵。向ひぬ。是其奸智。長る。所姑且。成敗を見んと。さうと。悟る  
 ぬ。朽惜けれと。席を拍ち。面を犯して。親代。孤忠の誠意。諫言。細  
 ちる。定正の。果を。怒れる。面。朱と。汰。眼と。睜り。聲。耳。苛。立。く。

され。助友。過言。親道。權が。分付。りとも。一言。一句。の。對。酌。も。多。敵。と。美。々。  
 自家と。誂る。并。忠臣と。い。や。里見の。近。曾。我。不。寇。せ。大。山。道。節。大。塚。信。  
 乃。も。と。引。入。れ。隣。國。不。毒。と。流。る。罪。重。か。と。今。伐。去。後。世。子。孫。の。患。ひ。  
 る。さ。且。頭。定。の。同。宗。と。迭。不。合。胸。解。け。今。我。都。助。の。ゆ。を。猶。疑。り。  
 誰。と。憑。ん。況。や。今。寒。天。と。其。利。を。垂。て。水。路。と。あ。ら。孰。の。日。あ。那。根。本。  
 多。稻。村。の。城。と。拔。ん。里。見。の。士。卒。を。た。と。水。族。あ。ら。も。あ。下。寒。天。の。水。戦。は。自。  
 家。の。脚。冷。龜。ら。敵。の。脚。も。同。か。る。べ。と。左。ま。れ。右。も。あ。れ。我。我。神。仙。の。幫。  
 助。あり。又。術。師。の。御。導。あり。必。勝。の。理。あり。今。征。伐。の。時。方。り。て。不。吉。の。  
 詞。を。盡。せ。る。饒。さ。れ。た。大。不。敬。其。罪。重。を。知。る。然。道。權。糴。谷。不。在。り。  
 る。が。我。催。促。を。罵。罵。中。て。今。や。な。る。雨。を。り。各。代。や。と。聊。を。士。卒。を。  
 ま。あ。ら。ま。さ。不。忠。多。外。聞。た。過。言。の。條。々。今。も。饒。か。り。覺。期。と。



八代傳九郎卷三十一

七

文政三年



八代傳九郎卷三十一

文政三年



せよと罵れども助友阿容るる氣色も御説でいへども昔も今も良將の幻  
 術賣卜の果敢るた技と憑むとやいふは耳を貴と目と賤とて奇巧を好み  
 必奇禍あり其も亦是御行の一事をいへば臣もが遲参を咎め久言今  
 参るも尚早う親道灌が教ふらて敗軍の折御危窮を極ひまつらん  
 為すとの名も果さ定正の敦圉に猛く衝と身を起しつゝいまれがそ君臣  
 上下の礼と乱る烏嶺の白物命根断れんと罵りさう佩刀の柄  
 を搥り引抜んとあけるをその席よりふる武田信隆驚馬に吐嗟とむ  
 己身を肴と推隔々刃を抜せも助友が與ふ陪話ていさう在下の信昌の  
 名代なる不遲参の罪あり然ると他人の為りも過言の罪を勸解直まの  
 打出の杭に似れども今助友が直宗も一毛へ則親の口状を憶む嫌忌不  
 涉り一年尚少に所いられいづる恩免と賜へか縦其罪是ありとそ

他が親持資入道の年来軍功より一の世の人も知る所るはあつた一個の  
 敵ども伐ありて反て有功の家臣の其子と誅しあひる必敵ふ笑るべし這  
 義を思ひ召さるると為し諷諫の詞を盡し程は左右侍り大石憲儀及  
 箕田馭蘭二も已しをいふ詞を添へ共侶の寛解し定正僅か奴を駈  
 める故の發見お撤る時憲儀聲をゆり立ち廿新六郎罷り立ねるよ退  
 ると遣り立ち助友の応もせ絶然と見らて微子の去り箕子の是が奴と做り  
 比干の諫ゆる則死せり我大皇國の越後中太あり寧ろ忠臣の拘とるはとも  
 乱離の人ふるべ死や後を思ひ合されんと咳をきり身を起して徐外  
 面退るとや隊兵三百名を従へる糟谷の館へ返り飲或の淹りて中途  
 飲是を知る者るりけり然るの目定正の奴を寛解し助友を恙も  
 せ武田左京亮信隆の素是上總る廳南の城主へ初信隆行心そ那

墓田素藤と酒茶遨遊の友垣と締びり去歳の比より春の至りて素  
藤が里見と怨るよりありて叛に竟る館山の悖逆の旗と建し時信隆  
も亦交遊の罪免れりと思ひ其友なる真里谷信昭千代丸豊俊等  
と共に各其城を据りて討隊の大將堀内貞仍杉倉直元堀内貞任等と  
戦ふ程に真里谷信昭が心変わりて寄隊の内応をせられ其戦忽地敗  
る。豊俊の生拘られ信隆の辛く命を免れて敵を漏される士卒と俱水  
路を歴て相模路へ落延り甲斐の團主武田信昌の嫡家るれば情地の  
城へ赴き則信昌其身の不幸没落の由と告うち托り漏れぬ主僕寓  
居あるける年の冬十一月扇谷山内の両管領が安房の里見を征  
伐とて甲斐の武田も加勢の軍兵を催促せらる然れども信昌は北條長氏の  
壓されみづから出陣をせし親族の中を去る者も軍代として早く五

十子の城へ東會せむとありかど信昌の生心して敢其勇を急ぐ老黨  
甘利亮元吉を召集へる其誰何と詮議あり元吉の母那里見義  
実義成父子の當今稀る良將と云世の風聲もあつた矧又隔昨歳  
當國の旅宿して料を館に見参る大塚信乃犬山道節の智勇兼備の  
俊傑多し君の知し召所今其黨都て八人皆里見の相仕へる軍用大に  
さるるも云も風聲も紛れに然るは是虎の翼を添ふる如く敵の城  
管領島合の衆をめて伐滅さす欲するもいふて克らぬや當家の  
猶幸ひ北條を厭ふ一役あり加勢の士卒を遣さる權且其成敗も御旨の  
まか。云意見憚る所ありて武田信隆をよと制め信昌に向ひて  
甘利が一議その理われも加勢の軍兵を遣されざる両管領必怒ん今在  
下の隊兵三百名を借し則館の名代と唱ふ五十子の城に到らば徳而

那里小到るといふ。而管領と相輔け。又里見も從つ。在下一箇の掎  
 たるを。輒く廳南の城を合復して。故のては是を領せん。いづれをの  
 さるゝと其々請求する。信昌も訝り。和殿我名代として五十子の城  
 造りて。及々而管領を相輔け。又里見も從ひて。舊の城邑廳南を合  
 んといふ。あろは言。詳し示しねと。向へ信隆然に計り密なるを可と  
 機小臨を。変お忘る。進退の肚裏お在り。あろは。倘果さる。出宗御身及  
 ぐの在下み。如く。開を齋して。謝し。あろは。時いゆる。と。喪ひ易く  
 り。饒さる。あろは。と。天地お誓ひて。請ひ。信昌猶も思難て。又元元意  
 見を問ふ。元元一霎時沈吟して。あろは。人曩あ友を擇んで。竟小城地を喪  
 ひ。又浮浪一稔及べ。其本性の胸逞く。て。且義あり。智術あり。謀る所悪  
 事さる。饒し。あろは。當家小稟し。恩を仇る。館の御為。牙をへた。

不義申す。自業自得之。倘幸い。其事成ら。這里然せる。帮助と做さ  
 親族故御へ。錦を装衣。還城樂の。飲ひ。先事の。試ふ。二百の軍兵を授  
 け。五十子へ遣し。一事兩用。死欲と。を信昌も。我も亦如右思  
 ふ。卒然其望。任左京。信隆。只。謹慎と。旨と。陳忽の舉  
 動。と。叮寧小敬言。遣兵二百名。と。授け。信隆忻然と。飲ひ。兼々  
 恩を拜し。別を告ぐ。上總も。今も。所從の士卒。十四五名。と。俱小伴の兵を  
 ね。夙く。甲斐の府を。立去る。あろは。胡意中途。淹留して。十二月五日の朝。五十  
 子の城。諸將の。行徳園府。臺へ。出陣。其。迹へ。入替り。定正。見。参  
 遅着の障り。を云云。と。頼陣。あろは。定正反。其。遅死を。外。肚裏  
 思。武田信昌。既。是。西を。厭。一役。あろは。加勢の。餘計の。軍役。且。這。信  
 隆。素。是。上總。廳南の。城。王。里見。義成。小。盾。と。衝。果敢

多城を攻落され。甲斐の武田の身を富ると人の噂も豫め有徳の  
 安房上總の如法案内なり。且義成の死に敵は甚く自家に  
 助まること必す。尋思をたつて。姑且身邊の侍を安房上  
 總の地理。虎実城邑のヲ寡剛柔を甲しとて。問致。いづれ  
 今助友が父代。孤忠の諫言忌とて。凛然として。烈に  
 堪て。敷きおせんと。敦圍。信隆為勸解ける。言听れ事。早  
 く。異の理り。一件の意味。現世の。笑の中。飯の内。中。賊  
 多。信隆が胸の機。善惡邪正。孰も。鬼神の量り。一。

第百六十回 衛士相桃む兩枝の花  
 名將許容る内應の質

介程の定正の五十子の城。近の濱邊。小舟。戦艦を集る。大石憲儀奉

其艦と展檢。約莫柴濱より。大森林六御。海岸の維。大小の戦  
 艦千百數十艘。這内中。鯨船。幾十艘。柴。焰硝の類。都て。燃草を。ヨ  
 採入る。小憲儀の家臣。仁田山晋六。武佐。是を。當り。夫役を。馳て。柴を。運  
 多。名。自ふる。地方。素。是。柴。富。其。故。當。時。柴。の。浦。人。ハ。十  
 月の初。其。年。の。暮。まで。海苔を。採。生活。其。海苔を。採。波。濤  
 至。処。より。十。數。間。水。中。小。舟。柴。を。建。竹。籬。色。の。像。小。做。措。げ。波。瀾。小  
 揺。海苔。日。日。小。這。柴。小。概。を。採。漉。且。乾。て。賣。る。を。地方。の。名。産。と  
 去。氣。味。極。好。他。郷。の。海苔。及。ふ。所。あ。ら。む。這。海苔。と。採。柴。と。土  
 俗。の。方言。名。つ。けて。ひ。び。と。近。曾。あ。る。人。の。狂。歌。海苔。と。採。柴。と。土  
 あり。王。の。賜。せ。ん。ひ。の。乾。海苔。作者。按。ま。る。ひ。日。日。の。義。洋。中。の  
 海苔。建。方。柴。より。來。る。日。日。小。概。れ。船。て。其。柴。を。呼。日。日。と。の。牧。地名。と

柴と云ふも。這柴小据りてるべ。廻國雜記。道與准后の柴浦。やうよみぬ  
 ひ歌。小船。まらつむ柴のうら人とあつ。即今の芝のりや。本名の更級日記。  
 所云。建柴の浦。即是其柴と建るの故。りる證とるまへ。或は又太田道  
 灌の平安紀。約小芝浦。やよめる歌。小露。あけ。道。の芝生を踏さう。駒。小。ま  
 ま。あけ。その空とわれ。昔も柴小芝を。通して。書る。假字。され。論。昔の  
 柴。海邊の真砂子地。あら。結。縷。草。俗。小。芝。と。の。言。く。生。ふ。く。あ。る。柴。と  
 芝。小。かけ。詠。る。歌。人。の。比。與。の。必。と。ま。へ。又。按。柴。小。程。遠。う。ら。ぬ  
 地名。小。日。比。谷。と。吸。做。ま。り。昔。の。這。頭。より。日。日。の。柴。を。専。伐。出。あ。り。て  
 日。日。谷。と。公。教。猶。考。て。正。比。照。驗。と。る。別。小。識。さ。む。昔。柴。小。柴。の。言。か  
 ず。より。を。解。く。の。間。話。休。題。有。悠。一。程。小。十。二。月。六。日。の。曉。天。小。音。音。曳  
 小。の。順。風。小。吹。送。ら。れ。け。る。船。柴。濱。小。果。一。目。今。艦。小。柴。を。採。入。る。ま。役

毎を喚て。奴。の。情。地。小。安。房。より。來。者。若。管。領。様。の。御。内。也。あ。る  
 袋。刀。祿。們。小。對。面。を。願。ひ。ゆ。る。の。京。一。也。と。い。へ。大。家。敷。馬。且。誦。り。と。  
 安。房。鉄。々。々。と。走。り。仁。田。山。晋。六。小。告。れ。晋。六。も。亦。驚。驚。れ。る。先。其  
 船。と。楫。歌。さ。る。船。械。を。奪。ふ。許。の。艦。の。間。へ。緊。く。維。せ。て。隊。兵。戎  
 舟。小。船。傳。ひ。小。近。つ。來。て。兩。個。の。婦。人。を。相。る。一。個。の。年。六。十。有。餘。中。骨。相  
 賤。く。又。一。個。の。年。二。五。六。あ。わ。む。顔。容。の。愛。小。惜。む。一。教。婦  
 る。飲。頭。髻。を。剪。て。兩。鬢。小。是。下。り。外。小。同。船。の。人。を。け。れ。晋。六。僅。小。心  
 ち。あ。つ。音。音。等。小。向。ひ。て。あ。つ。媪。小。是。安。房。人。鉄。傳。折。小。憚。り。も。何  
 ど。敵。地。より。來。け。れ。を。恁。公。我。の。扇。谷。殿。の。麾下。の。一。諸。侯。當。國。大。塚。の。城  
 主。大。石。見。守。憲。重。王。の。家。臣。也。郎。君。源。左。衛。門。尉。憲。儀。主。小。隸。え  
 たる。仁。田。山。晋。六。武。佐。是。之。憶。小。若。們。の。吹。流。され。飲。も。ま。這。頭。が。故。御。で

還りて歎と問ふと音音の咄あまふ否我々の然る者るも故主の與内応の  
 密使の参りたる其故の箇様々々と千代丸豊後の事の顛末且閉戦の  
 時小臨る裏伐と里見の艦と焼く欲する進退を突く必其の告げ  
 其言果て又安房千代丸の残黨の世を潜ひて安房の在る者百十數  
 名はれども女子もその漁舟も遠くおまを饒されねば已と云はれ我々が  
 大事の使の立ゆり良人も見子もあの春の閉戦の陣殺をされぬ共侶の  
 嬌婦のゆる敷るねども我名を極引媳婦の臥間と喚做しゆりゆら  
 美を御主君の稟上ゆらと憑心ゆ曳も共侶の其漏るるを補ひて本末乱  
 さを哄誘せし晋六の黙れ騙見奴舌長し縦使の女流でも忘るる東西の事  
 代丸氏の残黨あてあける歎その公美の差錯るる那人當家へ内応の謀  
 書と必齎しとんととわねといふせし音音の羞る面色して御向事の

慌しくて丹のちとたれゆり非如其書あまふも浮るるをたれゆらと云は  
 晋六のあまを黙れ騙見奴舌長し縦使の女流でも忘るる東西の事  
 降人裏伐の願書とせまふと云敷見あんな必是若們的里見の間者疑  
 いる。結柄れ兵毎饒まると訛聲高く喚れ捷雄の親兵五六名兼りぬと  
 応も果ぞ船の以りと乗移り音音曳も云云と争ふ分説を听かて十  
 の三四捷喫して索を楳んと聞折るる前より來ゆ快船一艘澳の真風  
 越帆揚る疾と宛箭の如く陡然として近つ程其船を係男女四名過  
 ぬ船頭不在りける一個の漢子の是則別人を毛仁田山晋六が火家ゆく  
 いぬる比回謀の為安房へ遣られて那地不在りける天品餅九郎あて在る登  
 時餅九郎聲慌しく必や人人も下りそまねくと制れ晋六あるは什  
 麻と訝りるる親兵を制りて程もる件の船の徑突然理と共中りて

早く水際へ寄りし餅九郎の磯へ降りし。其頭小立る晋六が耳を掖よ  
せし。悄説り。又友勝と妙真單節と指して事の由を告る程既めて天の  
明けり。浩處へ大石源左衛門尉憲儀の聚合一戦艦を展檢せし。五六  
十個の士卒を領し。騎馬苛めり。五十子の城より出て来りし。仁田山晋六天岳餅  
九郎の邊へ是を迎へ。訟稟を述べた。其を憲儀より馬より下て  
登見不掛りぬ。當下晋六を千代丸豊俊が降参を請ふ。前使の事を告れ。餅  
九郎も亦豊俊が再度の使濱縣馬助母と女弟と推して来りし折の爲。体  
馬助が故朋輩某甲を投殺すと。餅九郎が偷見て豊俊が裏伐の内意の  
詭譎るぬ。照据をゆられ。其使馬助も男女三名と同船あり。かゝる來りしは  
事の首尾を詳し報り。憲儀點頭ら。欵び。隨即音音豊と友勝  
妙真單節と都て船より召登りて。みろ。又其來意を尋る時。降人の作

法をればと。晋六則友勝の両刀を帶るると。饒さ。徳而友勝が所  
餅九郎が報ると。毫も差支と。友勝の千代丸豊俊が舊臣濱縣  
馬助と偽名告て。則豊俊が裏伐の諜状書と呈され。妙真の馬助の  
母戸山單節の馬助の女弟叫子音音の桶引曳の臥間と。各各名を變て  
俱小憲儀の拜謁を登時大石憲儀の件の諜書と。ち用は。見。異  
懐の夾めて。豊俊裏伐の情願の既。我回諜兒天岳餅九郎が見出  
きて相違あり。今今今疑ふ。水戦の大後日と定む。其折殘  
黨獄を破りて。豊俊と竊出して。俱小裏伐して。里見の艦を焼くべし。其故の  
馬助が。宅眷を安房に在せし。と。参りし。極好戸山叫子臥間  
と。三個の女子の保質して。城内へ召措ん。但一方の士卒の豊俊を  
認りし者。あられ。桶引と。其嫗を武佐の管けて。艦に留て。豊俊を



明相お好清英ひ怪事て信有者あらざと生拘り

女流を留めて憲儀豊俊の謀書と受く

八代信九車巻三十五

文治堂藏



東郷折の眼見せよ。又濱縣馬助の情地。安房へ立かへり。残黨並に故主  
 豊俊の報て裏伐の準備をいそがね。我の徑に五十子へ退りて言上あ及ぶべし。と  
 なる。然と宣示其大家に。く美額衝く。開中友勝へ唯々とむり。小言兼  
 奉立まき。當下仁田山晋六。一旦設官。友勝が兩刀を卒と返せ。友  
 勝は受戴。腰の帯びて。妙真音音曳。單節の目を注。あう。る。を。却  
 憲儀の拜謝し。且晋六と餅九郎。考小別を告。退。船。も。乗。り。船。を。推  
 建。安房を投て。漕去りけ。介程。大石憲儀。天品餅九郎。分付て。妙  
 真の戸山曳。臥間。單節の叫子。三個の婦女子。開。儘。推。立。て。俱。五  
 十子の城。か。り。來。隨。即。主。君。定。正。千。代。九。豊。俊。が。裏。伐。の。謀。狀。言。上。聞。ら  
 且。裏。安。房。遣。う。間。諜。見。天。品。餅。九。郎。が。俱。一。て。來。け。豊。俊。の。密。使。濱  
 縣。馬。助。と。老。弱。四。個。の。女。子。の。と。願。未。送。き。久。上。定。正。其。書。を。閱。し。

其言を聞き。欽。不。堪。き。舍。笑。れ。る。額。と。拍。て。憲。儀。の。心。を。往。る。日。汝。も。少。ら。ん。  
 那。風。外。道。人。の。遙。安。房。の。方。と。見。出。し。て。洲。寄。小。隱。々。る。黒。氣。あ。り。異。日  
 那。里。内。応。の。者。あ。ん。と。し。先。見。果。し。て。違。い。を。今。料。ら。せ。し。て。千。代。九。圖。書。助  
 豊。俊。の。内。応。の。吉。事。也。別。又。赤。呂。百。中。武。田。信。隆。の。便。宜。を。い。ふ。皆。是。自  
 家。の。洪。福。今。番。の。征。伐。必。勝。必。利。何。の。疑。い。あ。ら。ず。件。の。戸。山。臥。間。叫。子。と  
 ら。の。女。子。毎。と。保。質。の。捕。置。を。開。き。箕。田。取。蘭。二。不。曾。け。ん。是。等。の。下。知。傳  
 へ。と。詞。香。を。分。付。る。面。色。あ。り。快。然。と。憲。儀。を。養。り。御。諒。の。如。く。這  
 回。の。吉。兆。第一。義。の。風。外。道。人。の。風。術。の。い。は。臣。等。明。日。谷。山。へ。赴。け。り。八。日  
 開。戦。の。折。約。束。を。違。き。て。那。風。を。吹。き。た。の。を。憑。り。又。保。質。の。女。子。に  
 事。の。取。蘭。二。不。御。諒。を。傳。へ。佐。と。ら。守。せ。い。下。相。あ。る。と。い。ふ。と。心。で。馳。て。退。き  
 却。箕。田。取。蘭。二。不。件。の。下。知。を。傳。示。し。て。俱。一。の。妙。真。曳。の。單。節。を。開。き。傳。

與一又父也。他等ハ皆女流なれども千代九豊後が保質なれば日夜の守と  
固くまへ。其番卒の頭人ハ家臣朝時枝太郎と天岳餅九郎と附置ん  
和殿の折々由断る。宜く心を屬てと諭其馭蘭二謹と兼て則件の三  
個の婦人を乾淨に一室に在らせし。次ハ外ハ守と許さ。枝太郎と餅九  
郎ハ勤番の頭人なれば五六個の雑兵を従へ。送代ハ守りて居り然も  
地ハ跛ハ虫水ハ住む魚ハ雄雄の媾合するハ此ハ這餅九郎と枝太郎ハ年  
三四十ハ至るまで尚獨寝や。妻をけれ曳ハ單ハ郎ハ年少くて且愛々  
面影の羈と做て暇な勤番ハ倦む。厭む。現野の花ハ目ハ艶く村酒の  
酔ハ心地ハさへ堪ざりけん。傍ハ人のなれば折ハ餅九郎ハ悄悄ハ地ハ枝太郎と  
商量する。我意ハ那叫子の千代九の殘黨濱濱縣馬助の女弟ハ良  
人ハといハ是ハ入ハ年増女ハ又那臥間の良人ハ一ハ良義ハ戰敗レ時

陣歿多。と云なれば向でも多。早致家ハ然ハモあれ甲も乙も。寤寐不娛  
ハ底意ハ。郎欲も思ハ。我も亦美婦欲得と久く求め。のまハ  
うで今番の恩賞ハ叫子ハ臥間ハ相公ハとなり。娶まハ思ハハ勝軍  
後ハ。ののを京ハ出ハ。既ハ這意ハ。守ハ。早暮  
ハ。恰も画る餅を見て。餓ハ刃ハ異ハ。然ハ先那戸山ハ告て。媒ハ  
誘ハ。後ハ。京ハ。思ハ。甚ハ。情語ハ。枝太郎ハ笑片向て。颯ハ  
傍ハ。賞ハ。領ハ。答ハ。然ハ。咱ハ。亦ハ。其ハ。意ハ。曩ハ。我ハ。間  
謀ハ。役ハ。姑且安房ハ在リ。時箇様々ハ不造化ハ。一旦捕捕ハ  
か。も。饒ハ。されて。か。り。里見殿ハ。心操ハ。那里ハ。虚実ハ。大爺ハ。報京ハ  
う。小功ハ。あ。り。和主ハ。共侶ハ。那婿ハ。一個ハ。を。乞。ま。る。ん。の。を。戸山ハ  
媪ハ。告。て。先ハ。縁ハ。と。結。び。置。ハ。送。ハ。樂。ハ。ハ。和主ハ。臥間ハ。叫子ハ

と向ふを餅九郎少将の御方、さてもあるまじき入道、其の叫子、戸山の媼  
我情願と和主告て誘へ、和主の意中の我告んと示し、合せり人、折の  
送代、妙真を情地、招けて云々と似ける、面の皮厚く、其情慾を打  
生きて、媒妁のとも譚へ、妙真の果果て、鳥辭人、思へども、果立るも、必  
怨む事、せえ、強顔、く、陽、然、色、成ると就らざる、間、て  
樹、延、空、言、さ、ち、も、措、れ、也、單、節、節、節、々、々、と、耳、告、腹、立  
あ、い、あ、べ、れ、も、大、阪、主、の、逆、も、謀、り、あ、い、一、の、這、頭、あ、い、む、然、あ、い、亦、物、怪、の  
幸、あ、い、の、さ、る、色、あ、い、の、と、解、論、せ、也、單、節、節、節、の、あ、い、の、ゆ、り、と  
応、も、の、堪、ぬ、ま、よ、立、つ、腹、を、横、日、刺、き、臆、推、開、て、天、を、瞻、る、物、思、い、眞、愛、の、那  
里、の、異、る、眞、愛、就、も、眞、姑、と、眞、子、の、上、も、左、右、心、か、る、胸、の、雲、雪、の、稀、る  
る、久、の、日、と、秋、と、も、思、い、露、路、の、玉、の、濡、る、の、袖、の、涙、と、不、題、の、目、洲、崎、の、里、見、の

陣所、の、遠、見、の、為、の、隊、兵、を、領、て、其、頭、の、浦、巡、り、を、致、し、一、個、の、小、兵、頭、印、東  
小、六、明、相、東六郎殿、荒、川、太、郎、一、郎、清、英、清澄、之、個、の、艦、心、見、を、擲、捕、て、本  
陣、へ、牽、り、て、あ、つ、俱、小、訟、稟、ま、さ、る、臣、等、方、僅、這、浦、續、絶、る、馬、頭、上、也、這、之  
個、の、艦、心、見、を、生、拘、り、來、歴、出、處、を、責、問、ひ、ひ、他、等、の、素、藤、と、同、惡、也、  
曩、の、廳、南、の、城、を、没、落、ある、武、田、左、京、亮、信、隆、の、使、也、當、御、陣、へ、參、る、者、  
と、い、へ、る、の、ゆ、え、敢、是、を、恣、ふ、せ、憲、斷、を、請、ふ、と、是、は、あ、ら、義、成  
主、の、端、近、く、也、其、生、拘、也、實、檢、あり、則、軍、師、大、阪、毛、野、奉、り、て、其、言、れ  
虛、実、を、鞠、向、ま、大、山、道、節、の、明、相、清、英、の、隊、長、る、れ、俱、這、詮、議、の、與、り  
け、然、が、の、生、拘、二、名、の、内、武、田、信、隆、が、猶、子、也、一、條、端、四、郎、信、有、と、喚、做  
ま、一、個、の、壯、伎、あり、其、の、者、則、陳、也、小、可、也、今、番、信、隆、の、密、使、也、立、ち  
ま、推、て、御、陣、へ、參、り、一、則、是、別、義、也、信、隆、諺、も、昔、田、素、

藤と親<sup>つと</sup>かけの<sup>つと</sup>交遊の<sup>つと</sup>罪脱る<sup>つと</sup>路る<sup>つと</sup>。竟<sup>つと</sup>御敵と<sup>つと</sup>りより<sup>つと</sup>脱<sup>つと</sup>くも<sup>つと</sup>執<sup>つと</sup>り  
 窮<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>一二の<sup>つと</sup>殘黨と<sup>つと</sup>共侶<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>亂戰の中<sup>つと</sup>命を<sup>つと</sup>免<sup>つと</sup>ま<sup>つと</sup>く。甲斐國<sup>つと</sup>へ<sup>つと</sup>赴<sup>つと</sup>つ<sup>つと</sup>國主武  
 田信昌<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>親族<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>身<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>寓<sup>つと</sup>す。今<sup>つと</sup>まで<sup>つと</sup>那里<sup>つと</sup>ひ<sup>つと</sup>ひ<sup>つと</sup>ふ<sup>つと</sup>肩谷<sup>つと</sup>より<sup>つと</sup>信昌<sup>つと</sup>へ<sup>つと</sup>加勢<sup>つと</sup>の  
 軍兵<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>催促<sup>つと</sup>せ<sup>つと</sup>る。信隆<sup>つと</sup>是<sup>つと</sup>の時<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>以<sup>つと</sup>て<sup>つと</sup>請<sup>つと</sup>ふ<sup>つと</sup>信昌<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>代軍<sup>つと</sup>と<sup>つと</sup>して<sup>つと</sup>隊兵<sup>つと</sup>統<sup>つと</sup>お  
 三<sup>つと</sup>百餘<sup>つと</sup>名<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>領<sup>つと</sup>す。御高<sup>つと</sup>五<sup>つと</sup>十<sup>つと</sup>子<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>城<sup>つと</sup>に<sup>つと</sup>到<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>然<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>其<sup>つと</sup>志<sup>つと</sup>陽<sup>つと</sup>中<sup>つと</sup>肩<sup>つと</sup>谷<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>從軍<sup>つと</sup>ひ  
 へ<sup>つと</sup>も<sup>つと</sup>先<sup>つと</sup>非<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>悔<sup>つと</sup>す。當<sup>つと</sup>家<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>仁<sup>つと</sup>義<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>導<sup>つと</sup>其<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>臆<sup>つと</sup>念<sup>つと</sup>既<sup>つと</sup>久<sup>つと</sup>し<sup>つと</sup>て<sup>つと</sup>舊<sup>つと</sup>罪<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>恩  
 赦<sup>つと</sup>あ<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>異<sup>つと</sup>日<sup>つと</sup>圍<sup>つと</sup>戰<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>時<sup>つと</sup>臨<sup>つと</sup>す。信隆<sup>つと</sup>必<sup>つと</sup>裏<sup>つと</sup>代<sup>つと</sup>て<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>大<sup>つと</sup>功<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>奏<sup>つと</sup>ま<sup>つと</sup>す。其<sup>つと</sup>忠  
 其<sup>つと</sup>功<sup>つと</sup>あ<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>於<sup>つと</sup>て<sup>つと</sup>舊<sup>つと</sup>因<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>廳<sup>つと</sup>南<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>城<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>返<sup>つと</sup>し<sup>つと</sup>賜<sup>つと</sup>へ<sup>つと</sup>か<sup>つと</sup>情<sup>つと</sup>願<sup>つと</sup>只<sup>つと</sup>今<sup>つと</sup>御<sup>つと</sup>許<sup>つと</sup>容  
 あり<sup>つと</sup>免<sup>つと</sup>許<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>御<sup>つと</sup>書<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>賜<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>異<sup>つと</sup>日<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>證<sup>つと</sup>文<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>做<sup>つと</sup>ま<sup>つと</sup>欲<sup>つと</sup>む<sup>つと</sup>言<sup>つと</sup>偽<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>爲<sup>つと</sup>任<sup>つと</sup>せ  
 一條<sup>つと</sup>信<sup>つと</sup>有<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>保<sup>つと</sup>實<sup>つと</sup>あり<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>召<sup>つと</sup>措<sup>つと</sup>せ<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>其<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>尾<sup>つと</sup>信<sup>つと</sup>隆<sup>つと</sup>が<sup>つと</sup>五<sup>つと</sup>十<sup>つと</sup>子<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>城<sup>つと</sup>に<sup>つと</sup>入  
 ら<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>以前<sup>つと</sup>路<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>悄<sup>つと</sup>地<sup>つと</sup>に<sup>つと</sup>小<sup>つと</sup>可<sup>つと</sup>考<sup>つと</sup>ふ<sup>つと</sup>使<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>課<sup>つと</sup>せ<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>信<sup>つと</sup>隆<sup>つと</sup>が<sup>つと</sup>呈<sup>つと</sup>書<sup>つと</sup>に<sup>つと</sup>秘<sup>つと</sup>して

小可<sup>つと</sup>が<sup>つと</sup>衣<sup>つと</sup>襟<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>裏<sup>つと</sup>に<sup>つと</sup>存<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>會<sup>つと</sup>出<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>亦<sup>つと</sup>肉<sup>つと</sup>さ<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>相<sup>つと</sup>違<sup>つと</sup>あ<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>べ<sup>つと</sup>く<sup>つと</sup>と<sup>つと</sup>い<sup>つと</sup>け<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>義<sup>つと</sup>成<sup>つと</sup>  
 是<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>ち<sup>つと</sup>ち<sup>つと</sup>隨<sup>つと</sup>即<sup>つと</sup>明<sup>つと</sup>相<sup>つと</sup>分<sup>つと</sup>付<sup>つと</sup>て<sup>つと</sup>其<sup>つと</sup>信<sup>つと</sup>隆<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>呈<sup>つと</sup>書<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>合<sup>つと</sup>み<sup>つと</sup>出<sup>つと</sup>さ<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>毛<sup>つと</sup>野<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>  
 讀<sup>つと</sup>せ<sup>つと</sup>て<sup>つと</sup>其<sup>つと</sup>文<sup>つと</sup>今<sup>つと</sup>信<sup>つと</sup>有<sup>つと</sup>が<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>趣<sup>つと</sup>と<sup>つと</sup>聊<sup>つと</sup>も<sup>つと</sup>違<sup>つと</sup>ふ<sup>つと</sup>と<sup>つと</sup>あり<sup>つと</sup>尾<sup>つと</sup>信<sup>つと</sup>隆<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>數<sup>つと</sup>約<sup>つと</sup>  
 其<sup>つと</sup>言<sup>つと</sup>文<sup>つと</sup>血<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>沃<sup>つと</sup>ぎ<sup>つと</sup>赤<sup>つと</sup>心<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>見<sup>つと</sup>し<sup>つと</sup>義<sup>つと</sup>成<sup>つと</sup>是<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>听<sup>つと</sup>果<sup>つと</sup>て<sup>つと</sup>毛<sup>つと</sup>野<sup>つと</sup>と<sup>つと</sup>道<sup>つと</sup>節<sup>つと</sup>  
 見<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>汝<sup>つと</sup>等<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>言<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>何<sup>つと</sup>と<sup>つと</sup>思<sup>つと</sup>ふ<sup>つと</sup>且<sup>つと</sup>義<sup>つと</sup>成<sup>つと</sup>武<sup>つと</sup>田<sup>つと</sup>信<sup>つと</sup>隆<sup>つと</sup>が<sup>つと</sup>昔<sup>つと</sup>田<sup>つと</sup>素<sup>つと</sup>藤<sup>つと</sup>と<sup>つと</sup>交<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>し<sup>つと</sup>  
 人<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>知<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>術<sup>つと</sup>心<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>れ<sup>つと</sup>も<sup>つと</sup>畢<sup>つと</sup>竟<sup>つと</sup>義<sup>つと</sup>成<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>本<sup>つと</sup>性<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>勝<sup>つと</sup>つ<sup>つと</sup>と<sup>つと</sup>知<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>も<sup>つと</sup>一<sup>つと</sup>旦<sup>つと</sup>逆<sup>つと</sup>徒<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>  
 與<sup>つと</sup>せ<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>今<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>悔<sup>つと</sup>し<sup>つと</sup>思<sup>つと</sup>ふ<sup>つと</sup>ら<sup>つと</sup>め<sup>つと</sup>と<sup>つと</sup>保<sup>つと</sup>實<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>寄<sup>つと</sup>せ<sup>つと</sup>て<sup>つと</sup>欺<sup>つと</sup>さ<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>誠<sup>つと</sup>心<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>示<sup>つと</sup>し<sup>つと</sup>  
 心<sup>つと</sup>麼<sup>つと</sup>許<sup>つと</sup>さ<sup>つと</sup>ん<sup>つと</sup>歟<sup>つと</sup>許<sup>つと</sup>さ<sup>つと</sup>ん<sup>つと</sup>歟<sup>つと</sup>試<sup>つと</sup>み<sup>つと</sup>是<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>議<sup>つと</sup>せ<sup>つと</sup>よ<sup>つと</sup>と<sup>つと</sup>向<sup>つと</sup>れ<sup>つと</sup>道<sup>つと</sup>節<sup>つと</sup>毫<sup>つと</sup>も<sup>つと</sup>礙<sup>つと</sup>議<sup>つと</sup>  
 志<sup>つと</sup>脚<sup>つと</sup>誼<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>恐<sup>つと</sup>れ<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>脚<sup>つと</sup>仁<sup>つと</sup>心<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>至<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>あ<sup>つと</sup>い<sup>つと</sup>へ<sup>つと</sup>も<sup>つと</sup>今<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>世<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>人<sup>つと</sup>心<sup>つと</sup>誓<sup>つと</sup>盟<sup>つと</sup>背<sup>つと</sup>は<sup>つと</sup>保<sup>つと</sup>實<sup>つと</sup>を  
 誓<sup>つと</sup>す<sup>つと</sup>敵<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>謀<sup>つと</sup>は<sup>つと</sup>者<sup>つと</sup>間<sup>つと</sup>是<sup>つと</sup>あり<sup>つと</sup>況<sup>つと</sup>や<sup>つと</sup>甲<sup>つと</sup>斐<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>武<sup>つと</sup>田<sup>つと</sup>甘<sup>つと</sup>利<sup>つと</sup>元<sup>つと</sup>元<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>ど<sup>つと</sup>い<sup>つと</sup>  
 智<sup>つと</sup>謀<sup>つと</sup>の<sup>つと</sup>老<sup>つと</sup>黨<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>は<sup>つと</sup>あ<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>開<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>臣<sup>つと</sup>等<sup>つと</sup>が<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>知<sup>つと</sup>る<sup>つと</sup>所<sup>つと</sup>傳<sup>つと</sup>聞<sup>つと</sup>を<sup>つと</sup>り<sup>つと</sup>宣<sup>つと</sup>示<sup>つと</sup>す

然るに信隆が降参保質よりとさればとて再議不及で恩免も  
 物体よりかかると議事を義成らちけて毛野が意見を問ふに然るに  
 道節が小心の量る所穩當と危くもいへども豊後佐の長もいふ今信隆の  
 歸降の願ひを疑ふと許さぬぞと御仁政も異同あり後小是をの者  
 へ一縦今赦免の御書を賜り信隆實に歸服せし情地を謀るよりあり  
 とも扇谷の士卒那意を悟り御書あるをのを知り反々信隆を  
 疑ふ下然るに是れは做さざして反問の計のりともいふ孰の方か御方か益あり  
 使の御書を賜り信有との保質を留め且信隆の意衷の虚実を  
 齎するも若とやいふ死と答稟せし道節も悟りて獨點頭くの義成遂に  
 去の議を任す則赦書を兩個の使に取せ返遣し信有をの  
 稲村を清澄に預けしけり。

